

行歯会だより (第32号) 2008年2月(毎月発行)

(行歯会=全国行政歯科技術職連絡会)

行歯会の皆様、お元気ですか?狭いようで広い日本列島、毎月各地から様々な取組をお届けしていますが、今回もパワー全開の歯科衛生士お二人のご活躍を紹介させていただきます。

地域紹介 東京都清瀬市より

歯科から広がるネットワークの輪!

東京都清瀬市 健康福祉部健康推進課 愛と勇気の歯科衛生士 牟田口郷子

《 数字から見る清瀬市 》

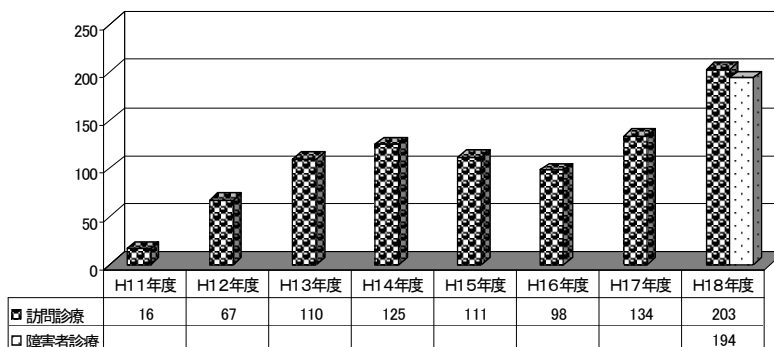
①人口…7万3千人②大きさ…全国800余市のうち11番目に小さい面積③清瀬駅から都庁前まで…35分④にんじん生産…都内1番*分量を出荷している⑤借金…190億円*公債比率10%⑥出生数…年間600人ぐらい⑦高齢者率…22.7%うち100歳以上の人…27人!⑧高齢者のうち介護認定を受けている人…6人に1人⑨市内医療機関数(病院・診療所・歯科診療所)…81箇所⑩歯科医師会員…27名⑪訪問歯科診療(H18年度)…203件!⑫障害者診療…194件⑬3歳児むし歯罹患率16.5%⑭12歳児DMFT1.5本

さて、あなたのまちに似ているところがありますか。

《 訪問歯科診療件数が多いわけ 》

清瀬市は、緑が多く空気がきれいで環境が良いため、昭和初期から結核療養所、病院などの施設が多く作られ、現在でも医療機関や福祉施設が多い地域です。介護施設や事業所も多く、平成19年4月現在2410人の高齢者が介護認定を受けて

訪問診療・障害者診療実績



*障害者診療…主に介助者なしでは通院治療できない者

*障害者診療については平成18年度より実績調査実施

います。歯科医師会員による訪問歯科診療の件数ですが、平成11年2月から統計を取り始め、表のように推移しています。要介護、支援者のうち1割近くが歯科診療を受けているのです。訪問歯科診療を経験した歯科医師は会員27名中17名です。どうしてこれだけの実績が上がるようになったのでしょうか。これはひとえに『連携』の賜物なのです。訪問診療の際、申込みから診療までに他機関、他職種と連携を取っているケースは8割を超えます。連携相手は、看護師、施設職員、医師、ヘルパー、ケアマネ等となっています。

《「連携」はこうして始まった》

清瀬市の連携は平成11年、東京都の補助事業「歯科医療連携推進事業」の取り組みから始まりました。この事業は、「要介護者、障害者、感染症患者等、これまで歯科診療を受けにくかった人たちが身近な地域で受けられ、口腔の健康を保ち、生活がより充実すること」を目的とし、連携システムを構築するものです。

《「連携」のポイントは現場主義》

1年間の話し合いを経て、かかりつけ歯科医の紹介、専門歯科医療機関への紹介・逆紹介の流れが決まり市報に掲載しました。また、歯科医師会の先生方と共に、ケアマネージャー部会、施設連絡会、看護・介護者連絡会など、医療福祉に関



るあらゆる集まりに出かけ、連携事業の説明をしました。実際に現場に携わっている人たちと顔合わせをしたことで、患者さん、利用者さんの口腔の問題についての相談が入るようになり、歯科診療へと繋がって行きました。ケースを重ねることで、歯科に対する関心も高まり、施設職員研修会などに呼ばれるようにもなりました。また、歯科医師会員5人のカントリーウエスタンバンド「Five Fifties」が障害者・高齢者施設で演奏や歯の話をするようになりました。高齢美人から「アンタいい男だねえ」などと言われ照れる様子が初々しく（写真）、また歯科を身近なものにしたようです。

《現場から組織へと広がる「連携」》

人と人のつながり、地域のネットワークが広がる中で、医師会と歯科医師会の連携も現場から始まりました。たまたま歯科医師会の先生と耳鼻科の先生がゴルフ練習場で出会い、交流会が始まり、やがて両会をあげての大交流会になり、さらに薬剤師会も加わり、現在では合同研修会や、情報交換などが活発に行われています。在宅診療をおこなう医師から歯科医師への訪問依頼も増えています。

《仕事がどんどん楽になる「連携」》

「連携」を進めて行くのに、特別な能力は必要ありません。「出かけて行く」「すばやく対応」「相手の視点で誠意を尽くす」ことを心掛けるだけで世界が面白いほど広がって行きます。最初は大変でも、現場同士を繋げ、ケースを重ねて行けば、その後は、自然と実績が上がり、こちらの仕事はどんどん楽になります。

《おっばいも「連携」》

母子歯科保健において「母乳とむし歯」については悩ましい問題です。清瀬市で

は、「安心して母乳を飲ませるために歯科健診を受けましょう」というスタンスで、助産師会（子育て支援 NPO 法人ウィズアイ）の心を掴み、子どもの健やかな成長

を共通目標とし、協力し合っています。全国で 11 番目に小さい清瀬市の連携はこれからも広がって行きます。

歌う喜び♪、喋る喜び、食べる喜び お口の健康づくり全国へ発信！

～口腔機能向上エプロンとともに～

口腔機能向上
「リレーで伝える各地の取
り組み」 番外編パートⅡ

去る1月6日（日）放送の「NHK のど自慢」に大きな口をくっつけたエプロンを身につけて熱唱する歯科衛生士をご覧になられ方はいらっしゃいますでしょうか？彼女は、恵中恵子（えなかしげこ）さん、和歌山県田辺市在住の歯科衛生士です。県の介護予防事業プログラムの策定にも協力され、実際の事業では、このエプロンを用いた舌体操や口腔清掃指導と「歯あわせ節」で高齢者の皆さんの心を虜にしています。まさに地域に根ざした楽しい介護予防に取り組まれています。

そして、現在作成中の予防給付口腔機能向上サービスのマニュアルにもエプロンの作成レシピを載せる予定となっているのですが、このエプロンを見られた方々からの反響が大きく、近く発売もされることになりました。その名も「健康恵プロン」（彼女の名前の恵とエをかけています。）袖なしと袖ありの2種類があり、それぞれ「くちこ」、「びるこ」と命名されました。



歯あわせ節（串本節のかえ歌）

- 一、ここは～口の中 きれいにし～ましょ
外が～わみ～がいて 中もみ～がく
入れ歯もみ～がいて こりゃ舌もみ～がこう
- 二、義歯が～合わぬと 食べ物ま～ずい
そしゃくこ～んなん 飲み込みこ～んなん
からだが弱るよ こりゃ歯医者に行つてよ
- 三、口がきれ～いと 食べ物お～いし～い
カゼはひ～かんし 栄養と～れる
よく食べよくか～み こりゃ長生きで～きる

いわゆるご当地民謡です。
「のど自慢」でこの歌を歌おうと
思ったそうですが、かえ歌はダメ
らしいです。



今回は、「是非自分で作ってみたい!」という方のために、作り方のポイントを紹介します。

作り方

- ★肌色のエプロンを用意する
- ★唇・歯・舌・喉仏の各パーツを作る
- ★唇はエプロンに縫いつけ、歯などのパーツはマジックテープでひっつけていきます
- ★上下の唇を合わせ、真ん中をハサミで切りそこから舌を出していきます。
(舌は後ろから手を入れて上下左右運動ができるようにします。)

これは重要です。色選びに失敗すると
顔色が悪くなってしまいます。(笑)



恵中さん曰く「私は顔をイメージしたもととして、袖ありエプロンを作成しました。一つ一つ手作りで時間も掛かりましたが、今となっては私の宝物です。」とコメントしてくださっています。

目や鼻なんかをつけてみるのもいいかも♪

理事の独り言（その31）

和歌山県福祉保健部健康局健康づくり推進課 得津 康子

温暖化といわれる昨今ですが・・・本州の南に位置する和歌山県でも今年は何度も雪を目にする2月でした。皆さんのところはどうですか？春はまだまだ遠いですかね。

さて、理事の独り言も2巡目も中盤に入ったということで「行歯会たより」も順調(???)に会を重ねて参りました。実は、現在編集に関わらせていただいています。(^-;・・・なので、編集後記を兼ねて、この頁を使わせていただきます。ご了承くださいませ。

今号で紹介させていただきました清瀬市の牟田口さんと田辺市の恵中さんは、それぞれ行政と臨床と立場は違えど、その共通点は、キャッチフレーズにもあったように「愛」と「勇気」にうち満ちていることでしょうか？すぐ見つかる「できない理由」ばかりに目がいきがちな私にとって、とても元気をいただいた事例でした。(感謝です。)

さてさて、近畿ブロックでは、先日「近畿地区府県政令市歯科保健主管課長会議」を開催致しました。毎年交代で各府県・政令市がホストを担います(今年は、東大阪市さんが大役を担ってくれました。大変ありがとうございました。)が、平成10年度から開始し、今年でちょうど10回目となりました。いつもながら、各地域での取

組をうかがい、生で意見交換のできる有意義な会議ではありますが、今回残念だったのは、厚生労働省からの出席が適わなかったことです。直に国の動向や考えについて情報提供いただける数少ない場であるので、各ブロックからの要請も多々有り、ご多用であるとは理解しつつも、是非来年はご臨席いただきたいと切に願っています。(歯科保健課の皆様、もしこれを目にするようなことがあれば、どうかよろしく願います。)

府県での協議テーマは、やはり「連携」だったかなあ・・・と思います。各地域においても様々な計画もの見直し・策定が目白押しのことと思いますが、医療計画、健康増進計画、果てはがん計画に至るまで「歯科」をどのように盛り込むか、また盛り込まれているかが論点となりました。私のところでも策定委員となっている歯科医師会の先生には「ここで歯科に関する記述がされなければ、後年の施策にも大きく影響してくるかも・・・」などと、半ば脅しにも似たお願いをし、しっかり発言していただいたお陰で全ての計画に「歯科」という言葉が存在する形で一段落しました。・・・が、しかし、問題はこれからです。計画がそれこそ絵に描いた餅とならないためにも今後の具体的な展開をどうするかについて悩ましい気持ちになっております。

今回、牟田口さんが報告くださった「連携」のポイントは、やはり「現場主義」であるということでした。綿密な事前準備は、当たり前ながら現状をしっかりと把握することですが、「できていない」という現状のみをイコール「課題」として、本来の目的(生涯、出来る限り口腔の健康を保ち、生活がより充実すること)を忘れて空回り～になっていることもしばしば・・・そんな自分を省みるきっかけをいただいたような気がします。

今後、この「連携」をキーワードに「行歯会たより」からも継続してなにか発信できたらと、担当者どうしで話し合っておりますので、皆様からの様々な情報提供もお待ちしております。

お知らせ



◎国立保健医療科学院・次年度研修予定

<http://www.niph.go.jp/entrance/h20/index.html>

▼短期研修

衛生主管部局歯科保健担当者研修

概要:都道府県・政令指定都市・中核市等の歯科保健担当者に対する歯科保健の研修

期日:H20.7.24(木)~7.25(金) 受付:H20.4.1(火)~5.30(金)

詳細は下記 URL 参照

<http://www.niph.go.jp/entrance/h20/course/320esmdp.html>

歯科衛生士研修(定員:20名)

概要: 行政機関等に勤務する歯科衛生士の資質向上を図る研修

期日: H21.1.19(月)~1.30(金) 受付: H20.10.1(水)~10.31(金)

詳細は下記 URL 参照

<http://www.niph.go.jp/entrance/h20/course/418sikae.html>

臨床研修指導歯科医(保健所)養成研修

概要: 保健所等に勤務する歯科医師が指導歯科医として効果的な臨床研修を行う能力を身につける

研修

期日: H20.8.28(木)~8.29(金) 受付: H20.5.1(木)~6.6(金)

詳細は下記 URL 参照

<http://www.niph.go.jp/entrance/h20/course/431rkdhk.html>

以前にもご紹介しましたが、シャイなあなたのために・・・

●質問コーナーを活用しよう！

“行歯会だより”では、日頃の疑問をメーリングリストで質問してみたいけれども気が引けるなあ・・・と思っている方のために、質問コーナーを設けています。

「質問コーナー」のご利用手順は次に示すとおりです。

1. 「質問の内容」と「氏名(所属も明記)」を記載して、下記の「質問受け付け専用アドレス」宛に、メールを送ってください。 gyoushi_kai_q@yahoo.co.jp
2. その後、質問をアドバイザー等に回答していただくように手配します。(質問者の名前は出しません。)
3. 回答ができましたら、「行歯会だより」の「質問コーナー」に Q&A で掲載します。その際、質問者は「匿名」とします。また、質問者への個別の回答は行いません。

以上のような流れですので、回答までに時間を要することをあらかじめご了承ください。

どうぞお気軽に、ご質問ください。お待ちしております！！